

夏秋いちごの高設栽培における夏期冷水利用による増収効果

福島県農業試験場冷害試験地

平成12・13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

野菜－イチゴ－環境調節－資源利用

分類コード 03－07－17650000

2 担当者

3 要旨

四季成りイチゴの夏秋イチゴ栽培では、高温となる盛夏期以降に果実の着果が顕著に減少することがある。そこで、冷水(かんがい水)利用による培地冷却の効果を検討した結果、以下の結果を得た。

- (1) 7月～8月の盛夏期に19℃前後のかんがい用水(冷水)を水中ポンプでくみ上げ、タイマー制御により培地中に埋設した鉄パイプ内に日中の6時～18時に通水した。
- (2) 地中5cmの培地の平均地温で1.1～1.8℃地温を低下させることができた。代表的な3種類の培地の中では、ピートモスとバーミキュライトの混合培地で地温低下の効果が高かった。
- (3) 四季成り性品種「サマーベリー」に冷水処理を行うことで、処理期間中の花房の発生と開花数が無処理区に比較し増加し、商品果収量が10～20%増収した。

以上のことから、高冷地に豊富にある19℃前後のかんがい水を利用することで、夏秋イチゴの増収効果が期待でき、生産地の拡大と秋期までの安定生産に付与するものと考ええる。

4 その他の資料等

なし